

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372600615		
法人名	社会福祉法人 寿宝会		
事業所名	グループホーム寿宴(1F)		
所在地	愛知県豊川市国府町山ノ入93番6		
自己評価作成日	平成24年10月31日	評価結果市町村受理日	平成25年2月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.aichi-fukushi.or.jp/kaigokouhyou/index.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市東区百人町26 スクエア百人町1F		
訪問調査日	平成24年11月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個別ケア体制を基本に、その人自身の思いを尊重し生活していただく様に支援している。買い物、喫茶店、外出など全体で行う行事の他、個別で外出支援の対応も行っている。利用者、家族にも安心と信頼関係を保ちながら、利用者様にとって居心地の良い環境を整える様な体制に日々職員間で話し合っている。施設においても環境にも恵まれており、近隣の散歩には最適であり、また地域との繋がりも大切にしている。協力医との連携も深く、緊急時における24時間オンコール体制、月2回の往診、健康管理、看取りの対応もしている。また、円滑な退所の為の援助も行い、(その人に合った施設紹介、病院、特養などの入所紹介など)本人、家族の希望を聞いたうえで対応している。職員一同、常に利用者様の事を考え、フロアチーム一丸となりサービスの質の向上に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は気さくで明るく、ホーム内は家庭的である。ユニットごとの特色を出しており、個性的な居室が多い。個別ケアが充実しており、利用者の出来る事を見極めて支援している。個別の買物やドライブ、喫茶店や外食に出かけたり、全体行事では観光地に出かける機会が多くなり利用者にも喜ばれている。看取りの経験をする事により家族、医者、職員との信頼関係が深まってきている。運営推進会議の参加者が多いため、多方面の助言や意見を聞けることにより、地域との繋がりにも役立っている。職員は法人内外の研修に自発的に参加し、資格取得者が多くケアの質の向上に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を念頭に、職員が同じ方向性を持ちながら、共有し実践できるように繋げている。全体会議や、フロア会議などでも意見、理念を考えながら、意識付けるようにしている。	理念は目に付く各所に掲示しており、職員に周知されている。フロア会議や申し送りの時などに理念にそぐわない行動や言動については、確認し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月地域の老人会が主催してくれる寄合の参加、近隣中学校、敬老会の行事、町内への買物、床屋の利用、散歩などを通して近隣との交流をしている。施設の花火大会(お祭り)の参加の促し、認知症の理解の講話など行っている。	小学生、中学生、高校生が体験学習や介護の実習に定期的に訪れて、利用者との関わりを持っている。また、近くの集会所で開催されている老人会に2ヶ月ごとに交代で参加して、地域の人との交流を楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域への認知症におけるサポート講習会、また地域に回覧し認知症に関する相談などを受けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の活動報告をし、自己評価票についての理解、施設の催しの報告などし、また地域との連携のサポートをして頂いている。(市民館まつりの展示作品提供、地域の情報の意見交換、エスケープ時の地域との連携)など。	今年度から家族の参加も得られ、職員も交代で参加している。運営推進会議の参加者がホームの避難訓練や園児とのふれあいに参加し、ホームでの様子を見学してもらっている。最近の会議では防災に関する話題が多く、その中で意見を消防計画に取り入れている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に市町村へ入居に関する相談、制度に関する相談、施設側の情報公表についての開示等を行い、担当者とも連絡を取り合っています。認定調査の更新、書類提出の際は必ず市町村の職員と話す場を設けています。	1ヶ月に1回は市役所へ出向き、入居に関する質問をするなど担当者と話をしている。市主催のグループホーム連絡協議会の勉強会や研修には参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員の見守り方法の徹底、また、身体拘束的において禁止の対象となる具体的な行為を理解し身体拘束を行わないようにしています。利用者様が自由に行き来できる環境に取り組んでいます。	新人職員にはオリエンテーションで何が身体拘束にあたるかを詳しく話している。また、法人内で年1回身体拘束についての研修会が行なわれて、職員は身体拘束をしないケアを実践している。玄関やエレベーターは開放されていて利用者は自由に館内や外へ出入りしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修に参加し、また管理者、チーフ共職員のストレス、疲労等にも配慮し、虐待に繋がらないように心がけている。職員等の接し方、言葉の使用方法など定期的に確認している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	豊川市社会福祉協議会の主催の成年後見制度の研修会の参加、また、権利擁護、成年後見制度利用にあたって地域包括支援センターに協力を得、本人、家族の活用に協力を得た。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居する前に、重要事項の説明に沿って細かく説明している。家族からみて重要事項の説明が不利益になっていないか、など他管理者とも話し合いを行い見直しもしている。契約後の料金の変更などは再度説明し同意をもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様や、家族用に意見箱の設置、また、市役所の介護相談員の訪問等を行い、運営に反映させるような環境づくりに取り組んでいる。家族の意見を取り入れるようにアンケートの実施も行い率直な意見を頂ける様な対応をしている。	法人のアンケートとして、職員の態度やマナーについて行ない運営に反映させるようにしている。苦情には速やかに対応し、家族との関係を円滑にさせるよう努めている。意見箱には利用者からの意見も入れられている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が、チーフ、主任、ホーム長にそれぞれ硬い雰囲気を作らず、気づきや、意見を取り入れ働き掛ける様に努めている。また、ミーティング、個々での話し合いなどを通じ、職員の意見を取り入れるように常に努めている。	フロア会議、全体会議、チーフ会議など職員は意見や要望を伝える機会が多い。職員からの提案で外出支援を多く取り入れるようになった。また、担当制となっているので、ケアプラン作成時など職員からの意見が多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者、管理者を含め親睦会などの実施をしている。資格(職務)手当てなどの支給体制をも整え、研修に積極的に働きかけ、また、ゆとりの持った勤務出勤など、疲労、ストレスの原因にならないような環境づくりに励んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間を通じ、研修計画の作成をし、またOJTの体制を確保し、多くの職員が研修にいける体制を整えている。、研修に行った後には会議などで発言し、研修復命書を記入してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内にての連絡協議会、またグループホームにての連絡協議会、他施設への見学、情報の交換等を行っている。また法人内に置いても、他のグループホームにて交換研修など行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所する前には、本人の意思、心を理解するように、職員一人ひとりが努め、また本人に会って会話を通しながら、施設での生活に慣れていただけるようにしている。本人が不安に思っている事を第一に尊重し、傾聴しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の介護者が困っている事を素直に引き出せるような環境と、求めている事を職員一人一人が理解するように努めている。事前面接において、職員一人ひとりが家族と、本人と面会の場を設け介護士に気持ちを汲んで頂くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の対応として、相談者には、他事業所を紹介したり、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所等に連絡をした事もある。状況等を確認の上、信頼関係を築きながら、必要なサービス提供に繋がるような支援も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側、される側だけの関係にならずに、本人の心を理解するように努めている。お互いに共に歩む姿勢で、感情をも共有しながら、生活できるような支援体制を築いていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事の時には家族にも参加を促し、家族とも途切れない環境をつくり、家族の思い、利用者様の思いを理解し、家族、利用者様との繋がりを持てる様に支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個々の生活環境を知る事に努め、それに添った環境等、生活習慣に努めている。自宅近くの商店街、お墓参りなども行き、以前の利用者様の近くの地域資源を活用している。また、遠方だがいままで通っていた通院なども対応している。	昔の友人や近所の方が利用者を訪ねてくることがある。また、利用者が友人に電話をしていることもある。今までの馴染みの場所や通院には職員が付き添い、関係継続に努めている。近所の床屋は新しい馴染みの場所となってきている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係に関する事は、本人の話し方や、本人や他の利用者様との関係を常に把握し、情報提供を全職員に申し送りなどで徹底している。また、利用者同士の関係の潤滑油になるように職員が働きかけをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した時点で、家族との関係を断ち切るのではなく、他施設へ移動した利用者様の面会や、家族にも手紙を送付したりしている。また、行事等の参加も呼びかけ、継続性を続けていけるように支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活において、利用者様の思いを大切に、何気ない行動、心情、細心な事まで職員同士で連携し思いの把握に努めている。把握が困難な利用者様に対しても、行動、心の観察を見落とさずに本人の意思を尊重している。	理念の「寄り添い共に歩む」を基本としており、利用者や居室や居間、入浴時などで1対1になった時に、思いや要望を聞いている。それを職員間で共有して実践出来る様に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーには気をつけながらも、本人の生活歴、バックグラウンドを把握するようにし、それに合ったホームでの生活に環境を近づけるようにしている。家族や、地域とも連携を図り、個別に対応できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員が、利用者様を総合的に見つめる力を養い、出来ること、残存機能についても把握し、それに添いながら職員と共に行ったり、行動できるように努めている。出来る事への趣味などもなるべく個別で対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意見を尊重し、家族にも日頃から思いや意見を聞いてケアプランに反映している。アセスメントから、カンファ、モニタリングを職員全体で理解できるような体制に心がけている。	入居時には暫定で1ヶ月の介護計画を作成して、その後カンファレンスを行い見直している。他は3ヶ月毎に見直し評価して、それを踏まえて、家族、医師、職員と話し合い検討して現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別での記録もし、日々の些細な様子も記録に残している。また、申し送りを1日2回行っており、申し送りの体制も22年度より変更した。介護計画も常に閲覧できるように最新の計画書が各フロアーに置いてあり閲覧できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度起こりうるニーズに対応しながら、支援している。緊急時における受診、外泊、通院、外出等家族の状況に添いながら、また利用者様本人の意思に添いながら、柔軟に対応できる体制に努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通じて、地域の老人会の寄合参加、敬老会、公民館への作品出展、また近隣住民とは散歩を通じ、挨拶にも心がけ、保健所の講習会参加、地域包括、市役所、社会福祉協議会など多種多様な資源を利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医との連携を密に行い、必要な診療科目も紹介状などを書いてもらい受診している。(眼科、歯医者、皮膚科など)また、利用者様が馴染みのある医院なども受診している。家族にもDrからの連絡事項はしっかりと伝えていきます。	月二回かかりつけ医の往診がある。またかかりつけ医が利用者の状態を見て、専門医に紹介状を出して受診をする時もある。9月には事業所前に検診バスが来て定期健診を受けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医の医院の看護師にも健康管理表を作成し、日頃の健康管理を行っていただくと共に、ホーム内において看護師を配置している。Drと看護師と、介護職員が連携をしました、薬剤師、管理栄養士とも適切な医療面でのバックアップができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時における手続きにおいては、協力医療機関のDrと連絡をとり、スムーズに行えるように支援している。また、入院中も本人の様子を必ず見に行き、家族と、ホーム側職員と必ず一緒に主治医のお話を聞く事に行っている。退院にむけての支援もおこなっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に対応し、本人、家族の意思を尊重し、入所する前に家族と職員で話し合いの場を設けている。また終末期における対応も、家族の希望に出来るだけ添い、看取りの対応をしている。終末期におけるケア、対応も家族、医師、職員と連携をとりながら支援体制が出来ている。	今年3回終末期を経験している。家族には入居時と医師の判断で終末期に近づいた場合と2度同意書に捺印をしてもらっている。医師の数回の往診と家族、職員間で連携を図り事業所として最善策の支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命士を呼び、応急手当の研修、また、法人内においても緊急時の研修を行っている。パートを含め職員全員が対応出来るようにしている。緊急時の対応を掲示し、敏速に対応できるように徹底している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害に対しては運営推進会議においても地域の方との連携を図り、話し合いをしている。また、消防立会いの下、避難訓練をし、避難訓練では地域の人も参加した。地域の人と災害時の支援体制を構築した。消防計画の見直し、作成もした。	年2回は避難訓練を行い、その内1回は利用者が非常階段で降りる訓練をしている。他に年2回の自主消防設備点検を行い、水や食糧の備蓄も用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員側の判断で物事を行わずに、利用者様の気持ちを考え常に行動するように心がけている。また、本人のプライバシーに配慮し、その人らしさを十分理解しその場限りの言葉がけにならないように注意している。	職員は利用者の人格を尊重しており言葉遣いも丁寧である。書類など事務所に保管して、個人情報保護に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が言葉では通じなかつたりした場合、難聴の方には字で説明を行ったり、いろいろな工夫をしている。また、本人の生活していく上での本人の希望、関心ごとを見極め本人が選びやすい、場面づくりを提供している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人が自己決定できるような会話を常に心がけ、その時の利用者様の気持ちを大切に個別に対応している。職員が外出する時は、常に声掛けをし、一緒に買い物を行ったりしている。本人の意思を尊重し本人に選択をしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の今までの生活、身だしなみ等を理解し、希望に添った対応に心がけている。美容院も今まで行っていた美容院にて対応するなどし、その人それぞれに選択を心がけている。また、本人の欲しい服、化粧品等も一緒に買い物することもある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日、食事に関しては、利用者様の意見を取り入れ、献立に組み入れている。また、買い物にも行き、自由に購入できる環境にも取り組んでいる。盛り付け、片付け等も利用者様と一緒にいき、菜園などの野菜も料理に使用している。	食事はご飯と味噌汁以外は母体法人からの配食となっている。月1回は外食で利用者の好きな食事を楽しんでいる。また、利用者と一緒に、鬼饅頭やホットケーキなどおやつを手作りしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取、献立など、毎月給食会議を行い、検討している。一人一人の好みの物を聞き取ったりし、献立にもそれを取り入れている。むせ込み、介助用食器等も個別に利用者様にあった物を検討したり、管理栄養士の協力も得支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは協力歯科医の元、指導を受け対応したり、往診してもらっている。また、嚥下障害のある方など、ハミングッドなどを使用し個別に対応をしている。歯磨きの仕方等も利用者様に教え、なるべく出来る事は本人に促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	すぐにオムツを使用する事を促すのではなく、なるべく一人一人の自尊心に配慮し、自然排便を促している。個別に排泄に関しては話し合いのもと、また家族の意見も取り入れ慎重に対応している。	排泄チェック表があり、それを基に定期的に声をかけてトイレに誘導している。夜は1時間毎に定期的に巡回して、トイレに誘導したり、ポータブルトイレを使用する人もいて、自立に向けた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便パターンを毎日記録し、水分、運動、センナ茶などで対応している。また、水分補給にも気をつけ、散歩、体操などをし、腸の動きを良くするように心がけている。ヨーグルトなども個別に購入し、便秘改善を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望、清潔感を考え入浴を行って頂いている。異性の職員が行う場合も利用者様の心情を心がけて対応している。機械的に入浴するのではなく、落ち着いて入浴できるように、また、その日、本人の意思を聞いて入浴している。	入浴は、午前10時30頃からの希望が多い。概ね2日に1回程度は入浴している。入浴拒否はあまりないが、その時には無理強いはせず、足浴をする時がある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく昼間は活動し夜は睡眠を促し、1日の生活スペースを個々に保てるようにしている。不眠等に関しては、家族、Drと相談しながら調整等も考えている。昼寝を促すこともある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関しては、変更があった場合は申し送りを徹底し、また服薬管理は常に誤薬がないか意識し、Drの指示に従い、薬の変化に伴う、症状なども報告しています。職員もそれぞれの薬の目的、副作用、などを把握するように努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活歴を把握し、本人の活力的になる事を日々探しながら支援している。利用者様全体で行う行事や、個別でできる支援を通して本人の気持ち、行いたい事を尊重し、出来る事は支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別に利用者様が外出したい先は支援している。また、散歩等もなるべく促し、地域との交流に努めている。買物、外食、全体行事などや、個別対応など、できることは行っている。車イスでの外出なども心がけている。	日常的に、近隣の散歩、買い物、地域の寄り合いなどで外出している。また、月1回は利用者の好きな外食をしたり、紅葉狩りなど四季を感じる場所までドライブに出かけ、喫茶店や外食をすることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は本人の希望などを配慮し、家族と相談の上決めている。少額の金銭でも安心感や、満足される利用者様には実際に本人が持っている。また、買物等へ行った場合でも本人が支払うように促している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状、手紙など家族へ送るように職員から促したり聞いたりしている。また家族へ連絡、お話等する電話も応接室にて、気兼ねなく電話できるような環境に努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様に対して危険や不安を与える環境にならないように配慮している。室内には温度計を設置したり、匂いなどを配慮し換気、空気清浄機を設置している。共有の空間も居心地よく過ごせる様に利用者や家族と相談し模様替えなど行っている。	リビングは窓が多くて明るく、そこから四季を感じることができる。ユニット毎に職員と利用者が一緒に作った作品が掲示してあり個性が出ている。畳スペースで、洗濯物をたたむ人や、ソファで寛ぐ人、テーブルでぬりえをしている人など、個々に居心地の良い場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂や、居間には畳のくつろげるスペースもあり、また玄関先、廊下のちょっとした所にソファを置きくつろげるスペースがある。利用者様の憩いの場所となっている。庭にもベンチ、テーブルを置き、そこでおやつタイムなどを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人に自由にお部屋の空間を利用して頂けるように、自宅で使い慣れた物などを部屋にもって来て貰っている。また仏壇も持ち込み可能です。持ち込みの制限は厳しくなく、環境を整え本人らしい空間を提供している。	居室には、利用者のぬりえや折り紙などの作品が置いてあったり、テレビ、時計、冷蔵庫、机など置いてあり個性的である。それぞれに利用者の居心地の良さが窺える。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様のそれぞれの身体状況等を把握し、本人が不安や、混乱が起きないような環境づくりをしている。失敗や、不安、混乱等を起こした場合は職員同士で話し合いをし改善に努めている。		

外部評価軽減要件確認票

事業所番号	2372600615
事業所名	グループホーム 寿宴

【重点項目への取組状況】

重点項目①	事業所と地域とのつきあい（外部評価項目：2） 小学生、中学生、高校生の体験学習や介護実習は継続して受け入れている。相携部屋の力士が来訪の折には園児も招待して、みんなで楽しい時を過ごしている。地域の老人会へは2ヶ月ごとに交代で参加して、地域の人との交流を行っている。ボランティアの来訪も多く、今年はフラダンスが加わった。	評価 ○
重点項目②	運営推進会議を活かした取組み（外部評価項目：3） 運営推進会議は年6回行われ、主な出席者は区長、国府連区蓮区長、老人クラブ会長、パトロール隊員、福祉社会員、民生委員、西部包括支援センター職員など多彩な顔ぶれが揃っている。会議の中で地域の行事や中町の避難訓練への参加を勧められ、実行した経緯がある。	評価 ○
重点項目③	市町村との連携（外部評価項目：4） 入居に関する質問や法的なことではわからないことは市のグループホームの担当者と常に連絡を取り、情報の共有をしている。市の介護相談員が3～4ヶ月ごとに来訪し、利用者と話をしてホームの実情を確認してもらっている。市主催の勉強会や研修には参加している。	評価 ○
重点項目④	運営に関する利用者、家族等意見の反映（外部評価項目：6） ホームとしてアンケートをとったり、苦情や意見などがあれば速やかに対応して、家族との関係は良好である。寿宴新聞や月1回発行する各個人の写真付きの手紙は家族にホームでの利用者の様子が良くわかると好評である。	評価 ○
重点項目⑤	その他軽減措置要件	評価
	○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。	○
	○運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。	○
○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。		○
総合評価		○

【過去の軽減要件確認状況】

実施年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
総合評価	○	○	○	○		

1. 外部評価軽減要件

- ① 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。
- ② 運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。
- ④ 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況（外部評価）が適切であること。

2. 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目2、3、4については1つ以上、外部評価項目6については2つ以上の取り組みがなされ、その事実が確認（記録、写真等）できること。

外部評価項目	確認事項
2. 事業所と地域のつきあい	(例示) ① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
3. 運営推進会議を活かした取組み	(例示) ① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取り組みを行っている。
4. 市町村との連携	(例示) ① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	(例示) ① 家族会を定期的（年2回以上）に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的（年2回以上）に発行されている。

(注) 要件の確認については、地域密着型サービス外部評価機関の外部評価員が事実確認を行う。